

変政風で届く山吹色の木の葉に惑わされず

(三條新聞合流点 平成二十九年十二月二十七日 水)

なぜか気が焦り一つ歳
を取るごとに気が短くな
る。お迎えが近くなった
のだろうか。

「生まれ変わる弥彦村
」の実現はいつかと案じ
つつ、停滞が優先する村
議会の三期目議員の一人
、昭和二九年生の若手の
ホープに焦点を当てまし
た。

議員の使命は、村政の
課題を把握して村民の福
祉向上のため多様な意見
を聞き、民意を村政に反
映させることと聞いてい
ます。

弥彦村の課題は何でし
ょうか。財政の悪化、観
光産業の復活、新たな農
業政策、老朽化した公共
施設への対応、高齢化な
ど課題は山積です。

新聞は議会の発言者を
、本多高峰氏(無所属)
と紹介しています。本多
高峰氏は、平成の湯治場
計画の中で、野菜直売所
の併設を要望していまし

た。ところが村長が変わ
った途端に野菜直売所の
建設に反対。その後は造
るのであれば郊外と発言
されました。本心はどっ
ちなんでしょうか。プレ
ハブ営業をはじめたころ
、どなたの言動か分かり
ませんが不穏な話も聞こ
えてきました。

旧弥彦観光ホテルを村
が購入した後の議会では
「解体には一億八千万か
かるとの概算だ。解体で
補助金を得るのは難しい
。村財政に多大な影響を
危惧する」と言っておら
れましたが、今は補助金
で更地になっています。

しかし最終工事の入札
は三回も不調で村は困っ
ている様です。不調にな
った理由も裏の裏がある
話です。「そこまでやる
か」と同類小異を思い出
しました。これも大ボス
のサシガネ? 老体の思
い過ぎしならよいのだが
外部監査についての発

言です。「過去に遡った
監査は効果がない。著し
く状況の変わる現代にお
いて、直近の年を精査す
るのが将来に有意義と考
える」

「外部監査する事は、
将来の弥彦競輪のために
さほど効果がない」
「公文書公開により取
寄せた資料に競輪事業関
連の指摘事項が載ってい
た。まず指摘事項にそっ
て村が自助努力すべき。
その結果であればムゲに
反対しない。不思議なの
は何十年も弥彦村は競輪
で頑張ってきた、調査の
必要性を十分理解できる
説明資料を出せ」

「六回にも及ぶ議案提
出は議会軽視だ。これは
民意である。村長が会計
責任にかかる調査・費用
対効果を明確に示さない
限り必要性の判断がつか
ない。村長自ら職員とも
ども英知をだすのが先決
だ」

以上が議事録から抽出
した本多高峰氏の発言要
旨の一部です。「直近の
精査が有意義」と言っ
ていながら、村長就任後の
期間に改めれば「村長自
ら職員ともども英知をだ
すのが先決だ」と言っ
ています。どちらが本当な
のでしょうか。

変化の激しい時代だか
らこそ、早期に手を打た
ないと手遅れになるので
はないですか。

いつも反対の五人組議
員(本多啓三、田中満男
、小熊正、本多高峰、赤
川幸子各議員)様の四人
から、対応策も示されず
「財政状況を懸念する発
言」が多く聞かれた一年
でした。天変地異もない
のに財政状況は急に悪化
するのでしょうか。

前政権時に財政力の低
下を質問した方は一人だ
けです。
素朴な疑問です。これ
も村長が変わったとたん

「財政の悪化」を強調す
る発言はなぜですか。強
調しても対策がありません
。議員として余りにも
無責任ではありませんか
。民意というなら対応策
を述べてほしかったです
。「変政風」で届く山吹
色の木の葉に迷わず惑わ
されず、村民の幸福追求
に何が必要か、何を為す
べきか。議員を志した「
素の自分」「己の良心」
に思いを馳せて行動して
と願っています。(弥彦
村・西年が最後のジサ)